

1-2 なぜピーナッツとも呼ばれるの

- ① 木の実(ナッツ)のような堅い莢殻や豆を付けるため
- ② アメリカで熱心にピーナッツの普及につとめたジョン・ピーナと言う人に由来し、最初はピーナズナッツと呼ばれていた
- ③ 由来は定かでない

語源は英語のpeanutsで、pea(狭義にはエンドウ豆、広義には豆) + nuts(木の実)にあるとされています。植物分類学上の位置付けは、マメ科ラッカセイ属で、草本にもかかわらず木の实のような堅い莢実を着ける珍しいマメの一種です。

ピーナッツは他に、日本では唐人豆、異人豆、番豆、地豆、底豆、だつきしょ等、地方色豊かな呼び名があります。外国では、アースナッツ、アースアーモンド等々、地下結実から由来する名前が多いようです。

学術的には、英語圏を中心にグラウンドナッツ(groundnut)という表現が一般的に使われてきました。ただ、アメリカではピーナッツとの表記が多く、関連学会もそうなっています。アメリカ人はここでも独自性を発揮していますね。研究者も学術報告を出すときは、アメリカの学会誌向けにはピーナッツ、それ以外ではグラウンドナッツと気を使う人が多いとの話です。

ちなみに日本では、学術用語の表記は、園芸学会ではらっかせい、作物学会ではラッカセイが基本であり、国の作物統計上では落花生となっています。それぞれ名前のルールが異なっているためですが、まぎらわしいので統一してもらえるとよいですね。

ちなみに、当WEBサイトでは、用語として「落花生」を主に使わせていただきたいと思います。するとレア・ピーナッツ育種園は、稀少落花生育種園となりますが、少しおどろおどろしい感じなので、軽めのレア・ピーナッツ…とさせていただきます。ご理解のほどを。

また、ジョン・ピーナさんの話は、落田さんの話と同様に勝手に作文しました。ピーナさんが実際にいらっしゃるとしたら、失礼してご免なさい。

正解 ①